

消費者動向調査 No.115

テーマ「冬のボーナス使いみち調査」

調査時期 平成 26 年 10 月

調査対象 福岡県内のボーナスがある家庭の主婦 500 人
(うち回答者 484 人、回答率 96.8%)

回答者区分

A.年代

	%
20代	5.4
30代	25.2
40代	33.9
50代	20.4
60代	15.1

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	48.0
妻だけ	12.6
両方	39.4

当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。

西日本シティ銀行
NCBリサーチ&コンサルティング

[調査結果本文]

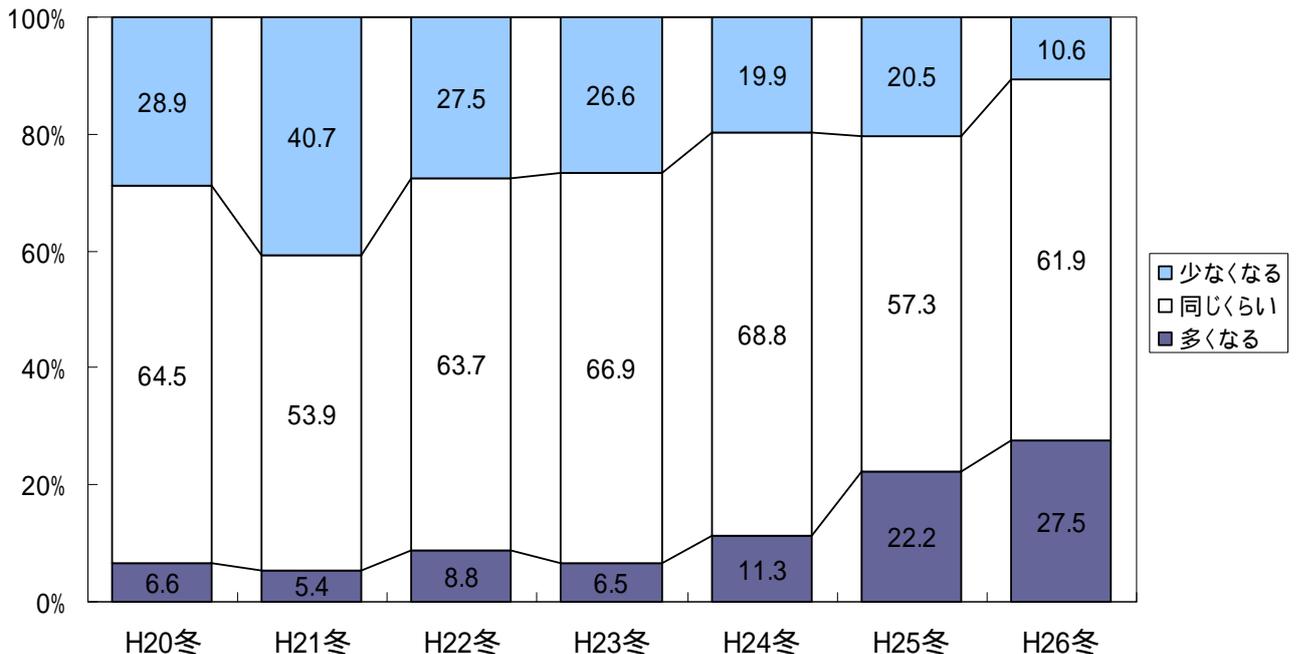
内閣府は11月の月例経済報告で、「景気は、個人消費などに弱さがみられるが、緩やかな回復基調が続いている。」と発表しています。先行きについては、「当面弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、消費マインドの低下や海外景気の下振れなど、我が国の景気を下押しするリスクに留意する必要がある」としています。

このような中、消費者はこの冬のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、冬のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に冬のボーナスについての消費動向をたずねました。

今年の冬のボーナス、前年冬と比較して「多くなる」は5.3ポイント増加で27.5%。「少なくなる」は9.9ポイント減少で過去最低の10.6%。

冬のボーナスが前年冬より「多くなる」と予測する割合は5.3ポイント増加し27.5%となった。「少なくなる」は9.9ポイント減少し10.6%で過去最低。前年冬と「同じくらい」は4.6ポイント増加し61.9%であった。

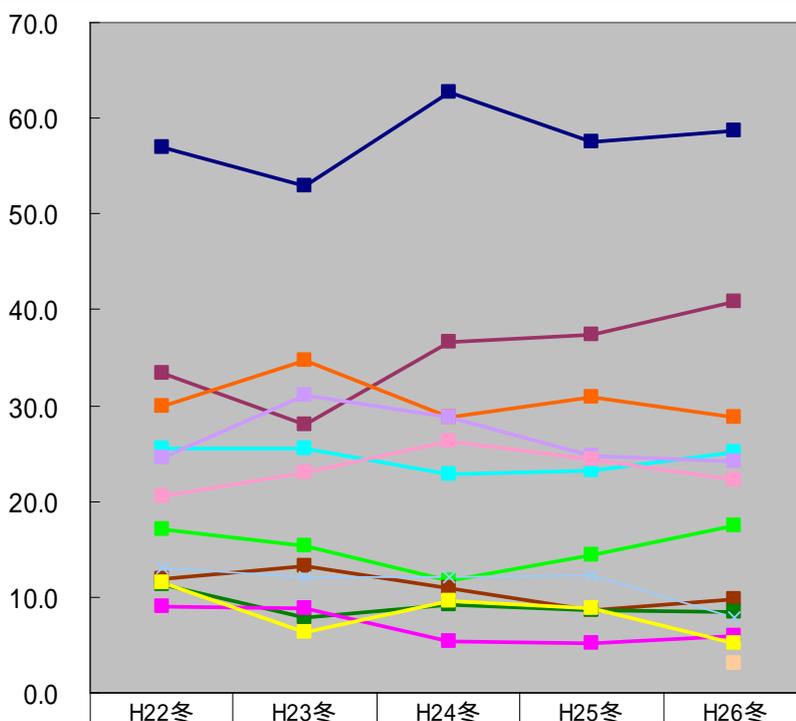
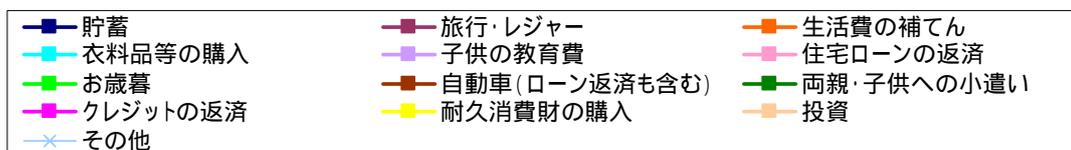
[グラフ 1 : 冬のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか] (単位: %)



冬のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で58.7%。2位は「旅行・レジャー」で40.9%。

冬のボ - ナスの使いみち予定 1位は「貯蓄」で58.7%。これは前年冬の57.6%より1.1ポイント増加した。2位は「旅行・レジャー」で3.5ポイント増加して40.9%。3位は「生活費の補てん」で28.7%となった。

[グラフ2：冬のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）] （単位：％）

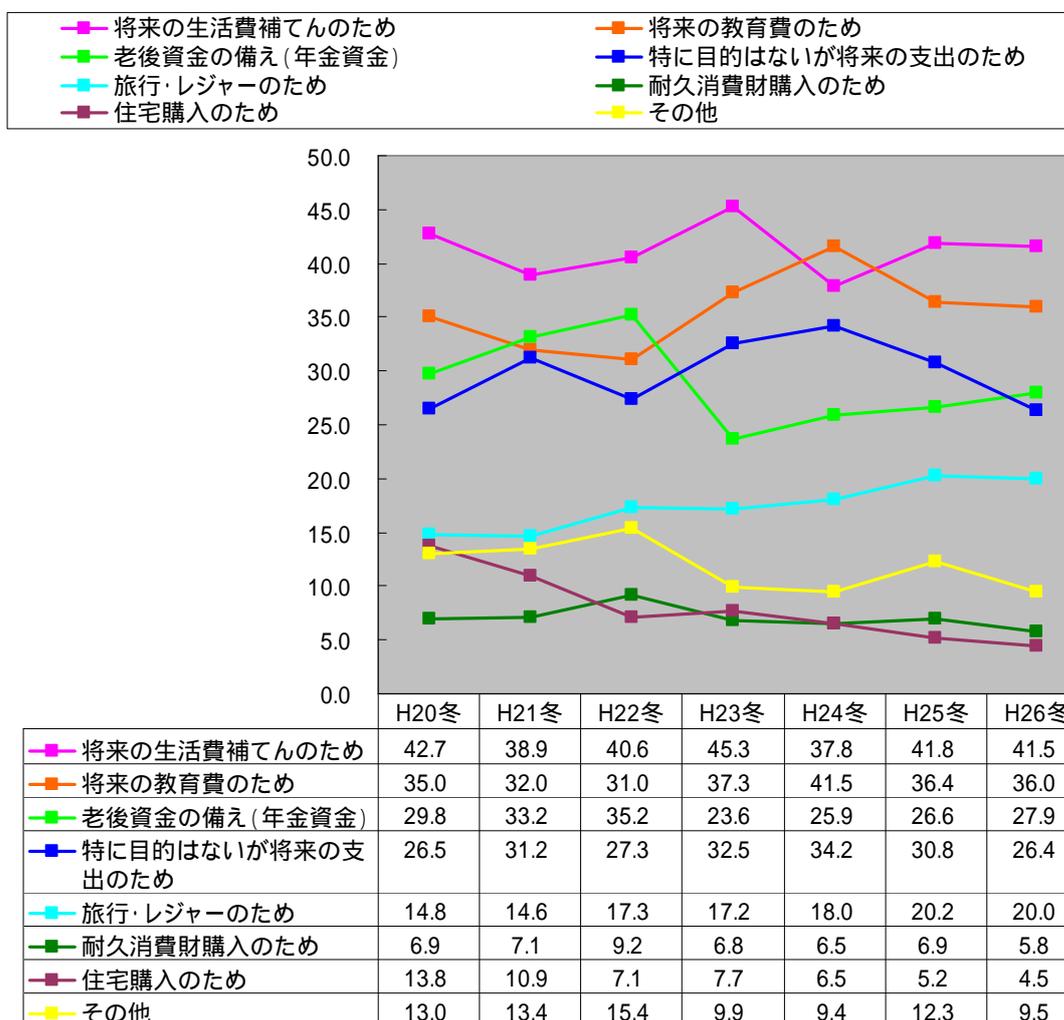


	H22冬	H23冬	H24冬	H25冬	H26冬
■ 貯蓄	56.9	53.0	62.8	57.6	58.7
■ 旅行・レジャー	33.3	28.0	36.7	37.4	40.9
■ 生活費の補てん	30.0	34.8	28.8	30.8	28.7
■ 衣料品等の購入	25.6	25.5	22.8	23.3	25.2
■ 子供の教育費	24.6	31.1	28.8	24.7	24.2
■ 住宅ローンの返済	20.6	23.0	26.3	24.3	22.3
■ お歳暮	17.1	15.3	11.7	14.3	17.4
■ 自動車(ローン返済も含む)	11.9	13.3	10.9	8.7	9.7
■ 両親・子供への小遣い	11.3	7.9	9.2	8.7	8.5
■ クレジットの返済	9.0	8.9	5.4	5.2	6.0
■ 耐久消費財の購入	11.5	6.4	9.6	8.9	5.2
■ 投資					3.1
■ その他	13.1	12.0	12.1	12.3	7.9

ボーナスを貯蓄する目的、1位は「将来の生活費補てんのため」で41.5%。2位は「将来の教育費のため」で36.0%。

冬のボーナスを貯蓄する目的の1位は、「将来の生活費補てんのため」で前年冬に比べ0.3ポイント減少し、41.5%。2位は「将来の教育費のため」で0.4ポイント減少し36.0%であった。引き続き将来への備えが上位を占めた。

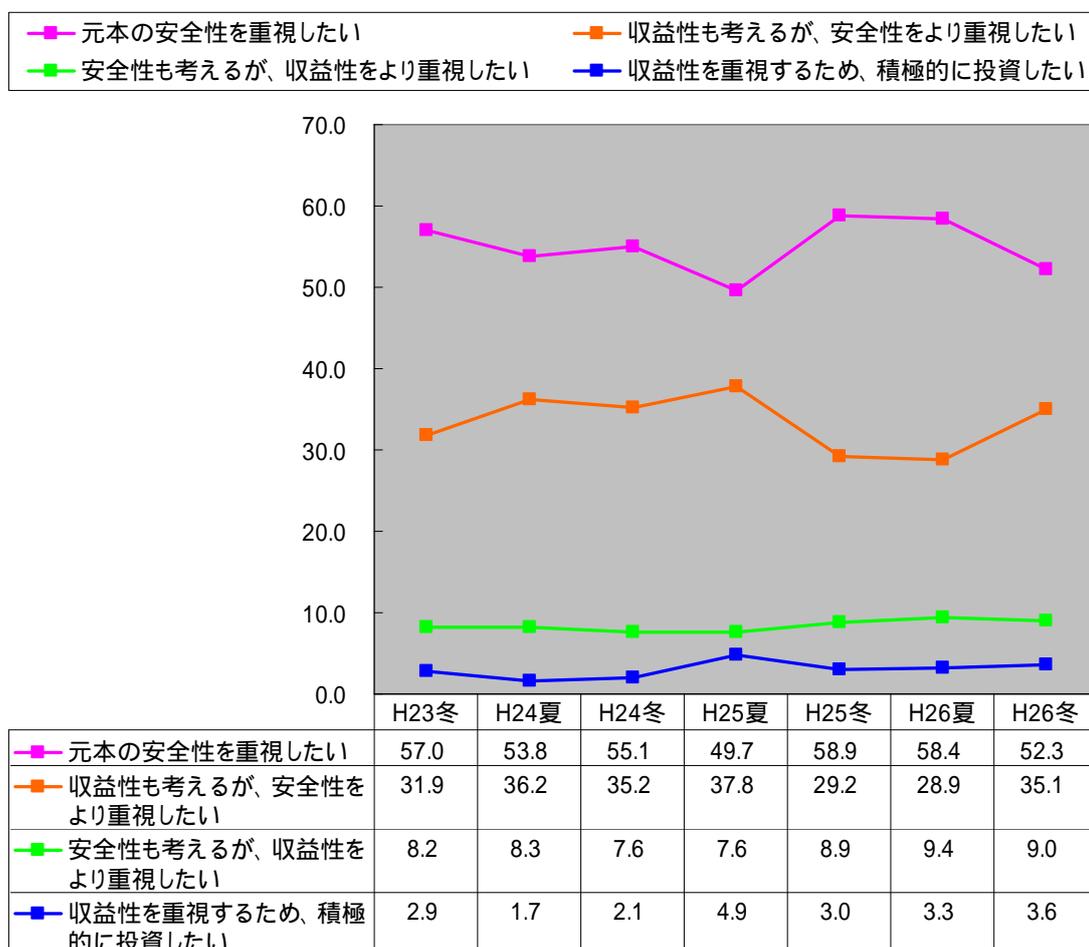
[グラフ3：将来の何のために冬のボーナスを貯蓄しますか（2つまで）]（単位：%）



冬のボーナスを貯蓄する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が52.3%で1位。

「元本の安全性を重視したい」が今年の夏から6.1ポイント減少の52.3%で9期連続1位。「収益性も考えるが安全性をより重視したい」が今年の夏から6.2ポイント増加して35.1%。景気は緩やかな回復気候にあるものの、安全性を重視する割合が引き続き高水準である。

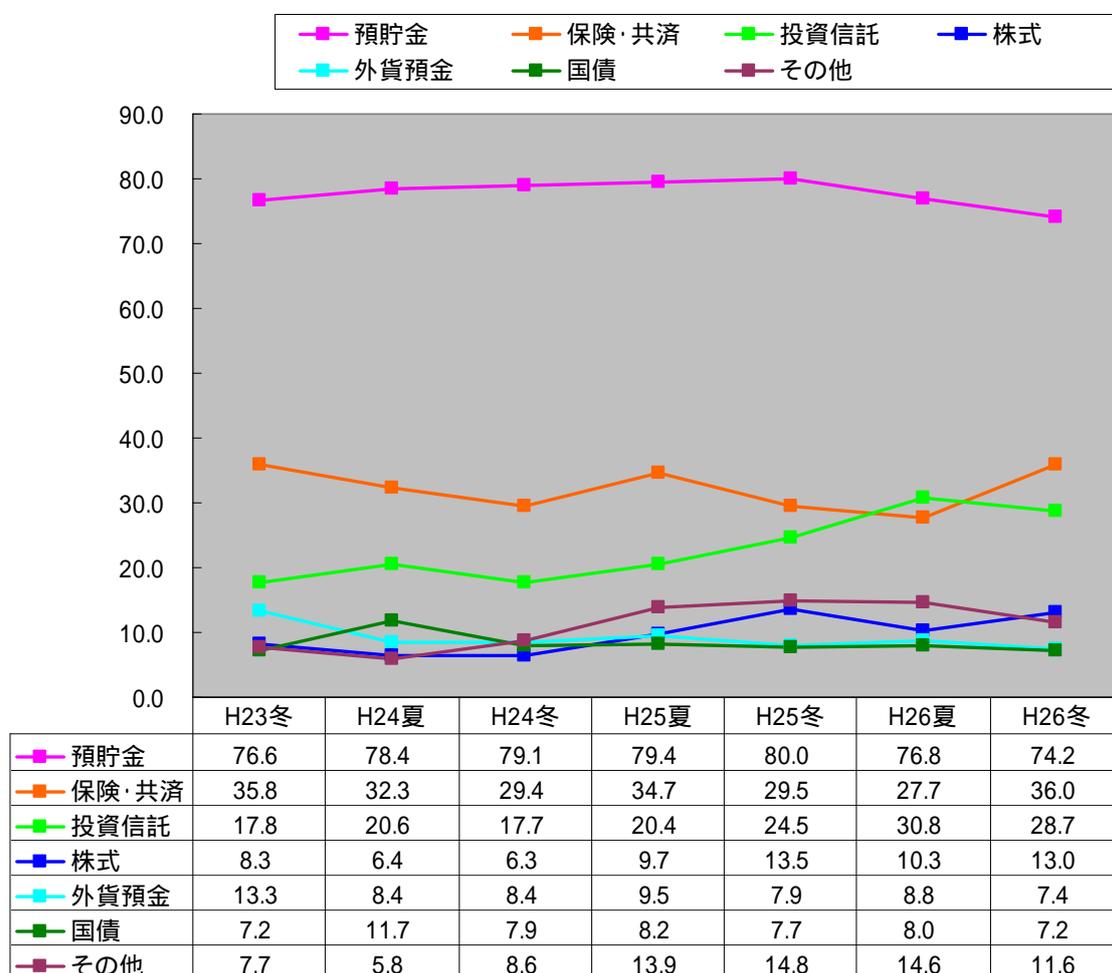
[グラフ4：冬のボーナスを貯蓄する場合、あなたの考えに近いのは]（単位：％）



関心がある金融商品、1位は「預貯金」で今年の夏より 2.6 ポイント減少し 74.2%。

現在関心がある金融商品は「預貯金」が 74.2%で 1 位。2 位は「保険・共済」が 36.0%で過去最高となった。景気の緩やかな回復基調のもと、「預貯金」への関心が減少し、「保険・共済」とリスク商品である「株式」への関心が増加した。

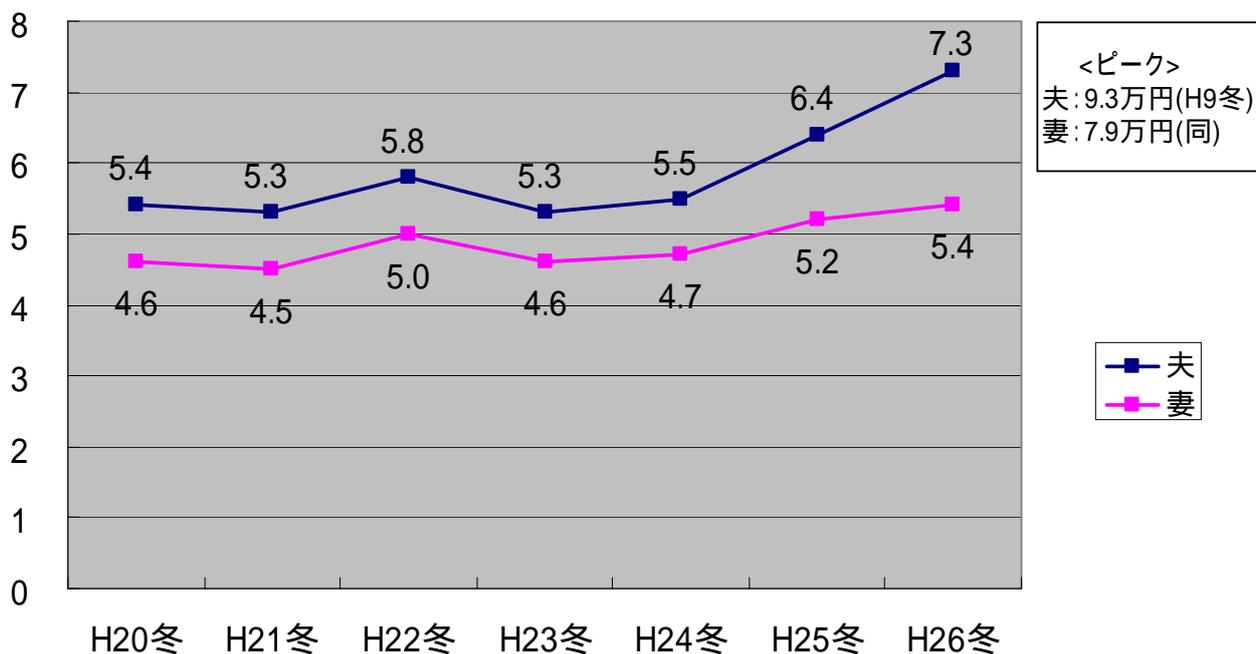
[グラフ 5 : どのような金融商品に関心がありますか(いくつでも)] (単位: %)



冬のボーナス、自由に使える金額は、前年冬に比べて夫は 9 千円アップ。妻は 2 千円アップ。

冬のボーナス、夫が自由に使える金額は平均 7.3 万円（前年冬比 9 千円増）。妻が自由に使える金額は平均 5.4 万円（前年冬比 2 千円増）。冬のボーナスが“多くなる”との予想が増加したのを反映し、自由に使える金額は前年の冬から夫・妻ともに増加した。

[グラフ 6 : 自由に使える金額はどれくらいですか] (単位 : 万円)



この調査に関するお問い合わせ先は
 西日本シティ銀行 広報文化部 長谷川 TEL 092-461-1869
 NCB リサーチ&コンサルティング 調査部 原 TEL 092-476-3051